

名 称	令和7年度 第1回 松山圏域活性化戦略会議（書面開催）
開催日時	令和7年9月2日(火)送付
開催場所	－（書面開催）
出席者	－（書面開催）
議事内容	<p>1. 松山圏域ビジョンの策定方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次期ビジョンの策定方針について、事務局から報告した。 <p>2. 現行ビジョンの検証結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次期ビジョンの策定に向けて、現行ビジョンの調査結果を、事務局から報告した。 <p>3. 次期ビジョンへの課題の整理と取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次期ビジョンの策定方針及び現行ビジョンの成果と課題を整理した検証結果を事務局から報告した。 ⇒会員から意見あり。 ※意見内容とその対応については、別紙を参照。

■松山圏域活性化戦略会議(第1回) 意見対応表

別紙

NO	意見内容	対応
1	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業に対する取組が薄く思う。民間でCLTや集成材などを使用し新築する事例もあるので、公共施設でも、全面的に県産材を使用した施設への更新を検討してはどうか。 	<p>1次産業については「中小企業の振興や地場産業の活性化(111)」「農林水産業に関する諸課題の研究(121)」などの取組を実施するとともに、今後も個別の取組を検討していきます。</p>
2	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本でも有数の林業地域であり、木造建造物をアピールすることで利用拡大につながり、インバウンドでの海外に向けた宣伝にもなる。一方で、海外への売り込みも必要だが、内需を高める方策も検討する必要がある。 	<p>「中小企業の振興や地場産業の活性化(111)」や「観光資源を対象としたプロモーションやファムツアーの実施(132)」などの取組の中で、状況に応じて国内外へのアピールを行っていきます。</p>
3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣害対策について有効な対策を打てないでいる。鹿や兎は増加していると感じており、現時点で対応しなければ手遅れとなるのではないかと心配している。また、スマート林業の話も聞いているが、何にどう取り組めばよいのか、明確なビジョンが出ていないと思われ、導入が難しい。 	<p>個別の事業を検討する中で、当事者との対話などを通じた現状把握、ビジョンや取組の明確化に努めます。</p>
4	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害を及ぼすと考えられる鳥獣の個体数調査や個体数の調整、猟友会への協力要請や助成などが必要。また、スマート林業(農業)がどのような成果を目的にしているか、プロセスを交えて周知して進めていくべき。 	<p>個別の事業を検討する中で、当事者との対話などを通じた現状把握、ビジョンや取組の明確化に努めます。</p>
5	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の究極的な目的は、「経済的な繁栄」ではなく「住民の幸福感」を高めることではないだろうか。 	<p>一定の行政サービスや生活関連機能の維持、そのための経済面での成長を果たす中で、「住民の幸福感」を高めることにつなげたいと考えています。</p>
6	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの成果を測定するスケールとして、デジタル庁などが推進する「地域幸福度(Well-Being)」を活用し、総花的ではなく地域幸福度と関連する施策に、より焦点をあてて取り組む方法もあるように思う。 	<p>住民アンケートから、「広域的公共交通網の構築」、「既存企業の振興・新規産業の創出・企業の誘致・雇用対策」及び「農林水産業の活性化」に取り組むことを求めているという調査結果がえられましたので、今後取組を進めていく参考にしたいと考えています。</p>

■松山圏域活性化戦略会議(第1回) 意見対応表

別紙

NO	意見内容	対応
7	<p>【課題】</p> <p>・将来ビジョンの構築には、今後の人口減少から生じる様々な問題(労働力不足、市場の縮小、税収の減少、生活関連サービスの縮小、交通網の縮小、空き家・耕作放棄地の増加、インフラの老朽化、地域コミュニティの衰退など)を抜きに考えることはできない。</p>	<p>人口減少から生じる多様な問題を「未来予測」としてインプットした上で、今回のビジョンを策定しました。</p>
8	<p>【取組の方向性】</p> <p>・このような様々な問題を視野に入れながら多角的な視点でビジョンを構築する必要があると考える。</p>	<p>人口減少から生じる多様な問題を「未来予測」としてインプットした上で、今回のビジョンを策定しました。</p>
9	<p>【課題】</p> <p>・対象地域が松山市と5つの近隣市町(伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町)であるにも関わらず、「道後温泉を軸とした観光振興」や「松山空港の利用促進」、「JR松山駅周辺地区整備」、「松山アーバンデザインセンターによる人材育成」など、松山市内での取組が多く、結果として近隣市町で取り組める項目が少なくなっている様に感じる。</p>	<p>本圏域は松山市を中枢とする都市圏であり、人口や経済規模が大きく、交通結節点・著名観光資源を有する松山市に関連する取組が大きくなる傾向にあります。各市町の強みを持ち寄り、それぞれの持つリソースやノウハウを活用する「範囲のメリット」も、連携の強みが生まれる類型の一つと考えています。松山市は、圏域の中枢都市としての役割を担いたいと考えています。</p>
10	<p>【取組の方向性】</p> <p>・もっとテーマを絞り、5つの近隣市町がより積極的に参加できるようなテーマを増加させ、地域が持つ特性や強みを最大限に引き出し、産業・観光・文化・暮らしなど多方面にわたる分野について各地域が有機的に結びつける様なビジョンとし、持続的な発展につなげてほしい。</p>	<p>各市町の強みを有効活用できる運営を行うなど、個別取組の検討を行います。</p>
11	<p>【課題】</p> <p>・現行ビジョンの指標である「商談会における松山圏域企業の商談件数」では、令和6年度実績値が令和元年度実績値を大きく上回っているが、目標には未達となっており、更なる取組が期待される。</p>	<p>今後も目標達成に向けて、取組を検討・実施していきます。</p>
12	<p>【取組の方向性】</p> <p>・圏域内連携を活かした新商品の開発や付加価値の向上等、販路拡大につながる取組を実施してほしい。</p>	<p>「中小企業の振興や地場産業の活性化(111)」や「農林水産業に関する諸課題の研究(121)」などの取組の中で、引き続き検討していきます。</p>

■松山圏域活性化戦略会議(第1回) 意見対応表

別紙

NO	意見内容	対応
13	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山圏域と他圏域との連携についても積極的に取り組んでいく必要性が高いと思われる。 	<p>第3期ビジョンでは「地域コミュニティの活性化(334)」「広島広域都市圏との連携推進(335)」などの取組を新たに実施していきます。</p>
14	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年3月に締結した「広島広域都市圏と松山圏域との相互連携に関する協定」において、観光振興、産業振興等について連携するとされていることから、それらにかかる実効性のある施策を進めてほしい。 	<p>第3期ビジョンでは「地域コミュニティの活性化(334)」「広島広域都市圏との連携推進(335)」などの取組を新たに実施していきます。今後も観光や産業振興面での連携を検討していきます。</p>
15	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3山・街・海をつなぐ広域観光の推進 ・各市町、または松山圏域の中での一部の市町連携の実績を積み重ねた実績値であるため、「目標を達成する」という意識が働いての数値ではないのが、課題にもなっていると思われる。 	<p>圏域内での連携を強化するなど、圏域として取組を実効的に推進するよう努めていきます。</p>
16	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道後温泉を軸とした観光振興」については、所在地の松山市に「目標」を達成するだけの「機会の創出」をいただければ、目標達成は可能と考える。 ・プロモーションやファミツアーは、各市町の予算にも大きく関わるところで、各市町の動向に任せている現状で、指標にするのは難しいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成につながる有意義な機会の創出に努めます。 ・費用や役割分担の在り方は各取組の中で協議していきます。
17	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中小企業の振興」において、商談会に参加できる企業が食品・食器関係に限られており、一部しか恩恵を受けられない。 	<p>取組をより効果的にする運営方法を検討していきます。</p>
18	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野を限定しない商談会の開催を検討する。 	<p>取組をより効果的にする運営方法を検討していきます。</p>

■松山圏域活性化戦略会議(第1回) 意見対応表

別紙

NO	意見内容	対応
19	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期ビジョンの「救急医療提供体制の維持」の検証結果報告において、松山医療圏での救急医療提供体制は24時間365日の目標を達成し、本基本方針は成果があったと評価できると記載されているが、二次救急病院は慢性的な医師・看護師・事務員等の医療従事者不足に悩まされ、人件費をはじめとする経費の高騰で経営が非常に厳しい中、なんとか救急医療体制を維持しているというのが実態。 ・また、一次救急においても令和6年度の年末年始はインフルエンザの流行により、休日診療所や急患医療センターの前の道路に長い車の渋滞が発生する事態となった。現在の松山医療圏の救急医療提供体制は、上記の医療従事者の献身的な努力により何とか維持できているものであり、松山市はもちろん、近隣市町、そして愛媛県は救急医療提供体制の現状をもっと深刻に考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間365日の救急医療体制を今後も維持していくため、現場の実情や課題を正確に認識し、必要な対応に注力してまいります。
20	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間365日の救急医療提供体制の維持を目指すのであれば、医師・看護師・事務員等の医療従事者不足解消のための施策を実施するのはもちろんのこと、現場の意見をもっと聞き、課題に対する施策をもっと積極的に実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間365日の救急医療体制を今後も維持していくため、現場の実情や課題を正確に認識し、必要な対応に注力してまいります。
21	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大都市圏で学んだ学生が愛媛に帰らず、都市部で就職している学生が多いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域の多様な取組の複合的な結果として圏域の魅力が向上し、圏域内での就職やU・I・Jターンにつながるよう努めます。
22	<p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外で学ぶ学生・専門学校生を対象に「卒業後松山圏域に帰る」ということを条件に、奨学金を貸与することを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もUターン後の定住促進に効果的な取組の検討を続けていきます。
23	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5「広域的公共交通網の構築と圏域拠点の整備について」広域交通結節機能の向上について進捗率が目標未達となっており、課題にバスタ整備の設計・他機関との調整が挙げられているが、現行ビジョン実施期間途中に生じた計画変更で生じた遅延について、今後の検証をどの様に行うのか。また、具体的に「バスタ」についての言及があるが、それ以外の交通結節機能の向上について触れられていないのはなぜか。 ・取組ごとの指標についても、区画整理事業の道路整備と交通結節機能が一括で評価されているので、解かりづらい。 ・総括の中で、「引き続き事業の工程管理を行いながら事業管理を行う」趣旨の方向性が示されているが、現行の進捗率が目標未達となった検証と具体的対策が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画変更による遅延を織り込み、今回のビジョン策定では目標値の見直しを行います。 ・交通結節機能の向上について、具体的には「道路ネットワークの強化(221)」「松山空港の利用促進(222)」「広域交通拠点のにぎわい創出と機能の向上(223)」などの取組を実施していきます。 ・個々の整備事業の進捗管理・運営改善については各事業内で行ってまいります。

■松山圏域活性化戦略会議(第1回) 意見対応表

別紙

NO	意見内容	対応
24	<p>【取組の方向性】 ・「JR松山駅周辺地区整備事業による広域交通結節機能の向上」について、様々な結節機能を「交通結節機能」として表記されており、個々の具体的なプランや計画の表記が無く進捗状況が解りづらいので、個々が分かる記載にしてはどうか。</p>	<p>「道路ネットワークの強化(221)」「松山空港の利用促進(222)」「広域交通拠点のにぎわい創出と機能の向上(223)」の各取組で指標を設定しています。</p>
25	<p>【課題】 ・圏域が連携した地域経済活性化への取り組みが限定的である。</p>	<p>後述のとおりです。</p>
26	<p>【取組の方向性】 ・経済に自治体の線引きはないことから、圏域が連携して、より地域経済の活性化に取り組むことが重要である。そのためには、商談会の開催だけでなく、圏域の経済連携を見える化できる包括的なKPIを設定し、そのKPIから事業を検討し、実施していくことが求められる。特に、農業、観光について経済連携による事業化が必要である。</p>	<p>経済連携では「圏域内総生産」「観光客数」を大きなKPIとし、「中小企業の振興や地場産業の活性化(111)」から「インバウンド観光の推進(133)」まで各分野において連携取組を進めます。</p>
27	<p>【課題】 ・人口減少社会を見据えた行政の生産性向上及びインフラ構築、持続可能な地域づくりに関する連携した取り組みについて。</p>	<p>後述のとおりです。</p>
28	<p>【取組の方向性】 ・人口減少社会を迎える中で、持続可能な地域づくりのため、行政事務やインフラ運用の見直しが必要である。現下、消防指令センターの合同運用や救急医療体制の365日維持・強化、可燃ごみの広域処理体制の集約化が進んでいると見受けられるが、より効率化を図り、持続可能な仕組みの構築を検討されたい。 また、気候変動により、豪雨や渇水といったリスクが高まっているほか、南海トラフ地震などへの対応も必要となっている。こうした自然リスクや災害対策は圏域で取り組むことが効果的であり、これまで以上に推進されたい。</p>	<p>・持続可能な行政サービスのために「高次の都市機能の集積・強化」分野において「都市機能の集積に係る連携事業数」をKPIに置いたほか、「図書館利用対象者の拡大(331)」や「汚泥の共同処理に係る調査研究(354)」など、行政サービスの集約を進めていきます。 ・災害対策では、従来の連携取組を引き続き実施するほか、「地域レジリエンスの強化」を新たな基本方針に設定し、各取組を強化することでさらなる防災・減災対策を進めていきます。</p>